

オリンピック・ムーブメントとユースオリンピック競技大会

黒須 朱莉¹⁾

The Olympic Movement and Youth Olympic Games

Akari KUROSU

Key words : Olympic Movement, Youth Olympic Games, Olympic Education, Peace Movement

キーワード：オリンピック・ムーブメント、ユースオリンピック競技大会、オリンピック教育、平和運動

はじめに

2020年に東京で開催されるオリンピック競技大会は、正式名称を第32回オリンピック競技大会 (the Games of the XXXII Olympiad) という。このオリンピックは古代オリンピックに倣った連続する4つの暦年からなる期間のこと指し、1896年のアテネで開催された第1回大会から順に番号が付けられている。近代オリンピックの創始者であり、教育者であったピエール・ド・クーベルタンは、自身の近代オリンピックへの願いを具現化するためにいくつかの仕掛けを考案した。例えば「世界は一つ」という思いを込めた五輪の輪が重なり合う「オリンピック・シンボル」であり、世界中の選手たちが滞在し、交流を深めるための選手村の設置であり、オリンピックとしてオリンピックを数える方法もその一つである。

ではクーベルタンは何を願い、そのような仕掛けを施したのだろうか。この点を端的に説明するならば、彼は近代オリンピックが平和な世界に寄与し得る場として機能することを願ったといえるだろう。クーベルタンは、「他人・他国への無知は人々に憎しみを抱かせ、誤解を積み重ねさせます。さらには、

様々な出来事を、戦争という野蛮な進路に情け容赦なく向かわせてしまいます。(しかし、)このような無知は、オリンピックで若者たちが会うことによって徐々に消えていくでしょう。彼(女)たちは、互いに関わり合いながら生きているということを認識するようになるのです¹⁾と述べた。教育者であったクーベルタンは、スポーツを通して、次世代を築く若者の心身の調和のとれた発達を促していこうと考えた。そして、その若者たちがオリンピックという定期的なリズムに沿って一堂に会し、相互尊敬の精神の下で己の力を競い合うこと、そしてそのオリンピックという場で互いに対する無知を克服し、相互理解が促されること。そのような営みが平和な世界を構築していく一つの礎になることを願ったのである。このようなクーベルタンの理念に基礎を置くオリンピックの思想をオリンピックズムといい、そのオリンピックズムを具現化していく活動の総称をオリンピック・ムーブメントという。

しかし、近代オリンピックの歴史を振り返ったとき、その理想と現実が乖離したいくつかの事実と直面する。例えば、オリンピック創設の初期から国家的対立を背景とした代表チーム間の対立が見られ、東西冷戦下におい

1) スポーツ学部

ては政治的対立からボイコット合戦が起こった。そして、オリンピックの開催と継続がある問題によって危機に陥ったとき、オリンピック・ムーブメントを展開していく中心的な組織である国際オリンピック委員会（以下IOC）は、現実と理想の乖離を埋めていくために新たな試みを打ち出してきたのである。以上のようにオリンピック・ムーブメントの歴史的な展開を捉えたとき、その流れに位置づくと考えられるのが本稿で取り上げるユースオリンピック競技大会である。

ユースオリンピック競技大会

ユースオリンピック競技大会（Youth Olympic Games, 以下YOG）は、14-18歳までを対象としたオリンピックである。4年に1度、通常のオリンピックとは逆の季節に実施される。例えば、2016年は夏季大会がリオデジャネイロで開催されたが、YOGは同年の冬に冬季大会を開催している。2010年第1回夏季大会（シンガポール）、2012年第1回冬季大会（インスブルック）、2014年第2回夏季大会（南京）、2016年第2回冬季大会（リレハンメル）と、2016年時点で夏季冬季計4回のYOGが開催されている。

この大会は第8代IOC会長ジャック・ロゲが主導者となり創始した「第三のオリンピック」であり、「若者のスポーツ離れを食い止め、世界の若者たちが交流しながらオリンピックや反ドーピングなどについて学ぶというある種の原点回帰を目指した大会²⁾」であるといわれている。つまり、YOGの開催は、通常のオリンピックが教育・平和運動と離れてしまった大会になっているという現実の裏返しでもあり、その現実を本来の理想に近づけていく取り組みであるといえるだろう。

文化・教育プログラム

YOGの特徴は、ユース世代の選手たちが競技だけでなく、各国の文化や環境、そして反ドーピングなどについて学ぶ文化・教育プロ

グラム（CEP：Culture and Education Programme）が導入されていることにある。YOGの理想は、スポーツ・文化・教育が一体となったイベントを実現することにあるため、CEPは競技会と同等の重要な要素になっている。このCEPではオリンピックの意義を実感し、友情や相互の尊重を表現できるようになることを目的としており、表1のような具体的なCEPのコンセプトと5つの教育テーマを掲げている。

表1. 文化・教育プログラムのコンセプトと5つの教育テーマ

CEPのコンセプト	
「学び」	地球規模の課題やオリンピック・ムーブメント、オリンピズム、競技について深く学ぶ
「貢献」	CEPで得た意欲やエネルギーをもとに環境の保護など地球規模の問題への取り組みに貢献する
「交流」	他の選手との交流を通じて尊敬の心や友情を育む
「称賛」	様々な国や人々を結びつけるオリンピック精神の力を体験し、オリンピックの意義や文化の多様性を称賛する
CEPの5つの教育テーマ	
CEPは5つの教育テーマにもとづき 10日間の大会期間中に20を超えるCEP活動を実施する	
オリンピズム	オリンピック・ムーブメントの哲学と精神を正しく理解し、オリンピックの意義である「卓越性」「尊重」「友情」を実感し、表現することを学ぶ
能力の開発	人生の過渡期での自身の管理や自己開発など、アスリートとしてのキャリアの様々な側面を学ぶ
幸福で健康的なライフスタイル	ストレスへの対処法、選手としての正しい生活習慣を身につけ、健康へのリスクを最小限に抑えることで健康的な生活を送る方法を学ぶ
社会的責任	自身の卓越性を自覚・理解し、ロールモデルとしての役割やコミュニティを代表する責任を学ぶ
豊かな表現	デジタルメディアの利用方法、自身の体験を世界中で共有する方法、芸術を通じた自身の表現方法を学ぶ

出典：公益財団法人日本オリンピック委員会「文化・教育プログラムの概要」
http://www.joc.or.jp/games/youth_olympic/cep.html（2016/11/17アクセス）

以上のコンセプトと教育テーマにもとづき、大会組織委員会は独自のCEPプログラムを考案し実施している。また、選手たちも大会の全期間を通じて選手村への滞在が義務付けられ、その間にCEPに参加することになっ

ている²⁾。

団体種目における仕掛け

YOGには実施競技にも特徴がある。基本的には通常のオリンピックで行われる競技が採用されるが、YOGではオリンピックでは実施されていない新しいフォーマットのイベントも行われ、オリンピックのプログラム自体の進化を図る機会にもなっている。例えば、バスケットボールの3 on 3、トライアスロンのリレー競技、アイスホッケーのスキルチャレンジ、スキーハーフパイプなどである。

なかでも、注目すべきは団体種目における試みである。YOGでは、性別や国・地域（国内オリンピック委員会：National Olympic Committee, 以下NOC）をこえた混合種目が設けられているのである。表2は、その混合種目一覧である。

例えば夏季大会では、馬術、フェンシング、柔道、トライアスロンに大陸別で競い合う種目がある。また、テニスやバドミントンの混合ダブルスでは異なるNOCの選手がペアを組む。冬季大会では、スケート競技のスピード・スケート、フィギュアスケート、ショートトラックと、カーリングがNOC混合種目を実施しており、国・地域をこえた種目における表彰式では、国旗国歌ではなく、オリンピック旗の掲揚とオリンピック賛歌が演奏される。このような団体種目における試みは、国や地域を超えた選手間の相互理解を促す仕掛けそのものだといえるだろう。

おわりに

本稿では、YOGをIOCによるオリンピックの理想と現実の乖離を埋めていくための試みとして位置づけ、その具体的な内容のみてきた。YOGの目的と取り組みの内容、そしてその背景に厳然とあるオリンピックの現実、我々の日常と遠い場所にあるものではないだろう。なぜなら、その現実には「スポーツを通してどんな人間を育てたいのか、どんな社

会を作っていきたいのか」といった問いかけが横たわっているからである。

CEPや混合種目などを経験したユース世代の選手たちが、少しずつオリンピックの舞台で活躍し始めている。今後のオリンピックの展望を拓く上で、YOGで蒔いた種はオリンピックで実るのか否かといった点を注視するとともに、突きつけられた「問いかけ」に向き合い続けたい。

表2. YOGにおける混合種目一覧

夏季大会		
競技名	混合種目名	
陸上	8×100m混合チームリレー	
水泳	飛び込み3m&10m混合チーム	
テニス	混合ダブルス	
自転車	BMX・マウンテンバイクロードミックスチーム	
卓球	混合チーム	
馬術	障害飛越大陸別団体	
フェンシング	大陸混合チーム	
柔道	大陸別混合団体	
バドミントン	混合ダブルス	
射撃	10mエアピストル混合チーム	
	10mエアライフル混合チーム	
近代五種	ミックスリレー	
アーチェリー	混合団体	
トライアスロン	大陸チーム4×ミックスリレー	
ゴルフ	混合団体	
冬季大会		
競技名	種目名	混合種目名
スキー	アルペン	バラレル混合団体
	ジャンプ	混合団体(ノーマルヒル/3×3.3km)
	フリースタイル	混合団体(スキー/スノーボードクロス)
	スノーボード	混合団体(スキー/スノーボードクロス)
スケート	スピード・スケート	NOC混合リレー
	フィギュアスケート	NOC混合団体
	ショートトラック	NOC混合リレー
バイアスロン	混合リレー(シングル)	
	混合団体リレー(ダブル)	
リュージュ	混合団体	
カーリング	混合団体	
	NOC混合ダブルス	
特別競技	クロスカントリーバイアスロン団体リレー	

出典：公益財団法人日本オリンピック委員会「実施競技・種目比較」
http://www.joc.or.jp/games/youth_olympic2014/event_compare.html
http://www.joc.or.jp/games/youth_olympic2016/event_compare/ (2016/11/17アクセス) より筆者作成

注

- 1) Pierre de Coubertin (1894) Jeux Olympiques: discours de M. de Coubertin. Le Messenger d'Athènes, 42, p. 307. 和田浩一 (2014) 嘉納治五郎から見たピエール・ド・クーベルタンのオリंपィズム. 金香男編, シリーズ・ワンアジア: アジアの相互理解のために. 創文社: 東京, p. 180.
- 2) 舛本直文 (2010) 2010年第1回ユース・オリンピック競技大会 (YOG) における平和運動.

体育哲学研究, 41: 19.

- 3) オリンピックにおける選手村は, 世界中の選手たちの交流と友好の場となるよう設置された仕掛けであった。しかし実際は, 「自国の選手同士ですら競技が違えば滞在日程も生活時間帯も異なるので選手村で顔を合せることはまれである。まして異なる国の選手たちが交流する余裕はほとんどない」という現実があるという。日本オリンピックアカデミー (2016, p. 91).

引用・参考文献

一般財団法人嘉納治五郎記念国際スポーツ・研究センター「ユースオリンピック」
http://100yearlegacy.org/Olympic_

Movement/yog/ (2016/11/17アクセス)

- 黒須朱莉 (2015) 近代オリンピックの理想と現実—ナショナリズムのなかの愛国心と排他的愛国主義. 石坂友司・小澤考人編, オリンピックが生み出す愛国心. かもがわ出版: 京都, pp. 86-115.
- 公益財団法人日本オリンピック委員会「ユースオリンピック競技大会」http://www.joc.or.jp/games/youth_olympic/ (2016/11/17アクセス)
- 日本オリンピック・アカデミー編 (2016) JOAオリンピック小事典. メディアパル: 東京.
- 舩本直文 (2010) 2010年第1回ユース・オリンピック競技大会 (YOG) における平和運動. 体育哲学研, 41.